

「総合馬術」17年ぶりの優勝

個人で相田が学生日本一

全日本学生

障害飛越、馬場馬術、

総合馬術の3競技で争われる全日本学生馬術大会が11月13日から17日まで、JRA馬事公苑で行われ、専大は総合馬術(調教、耐久、余力)で17年ぶりの優勝に輝き、障害飛越でも4位、3種目総合で準優勝となった。

また、総合馬術競技個人で相田一善主将(商4

・宮城農高)・ミスターグリーン号が学生日本一の座をつかみ取った。

「全員でフォローし合った結果の勝利」と富沢健悟監督が振り返るように、今大会はチームワークの良さが目立った。耐久審査では、エース・天

羽美穂(経済4・富川高)がまさかの大幅減点し

かし、ここで焦らず、「お互いに助け合おう」と初心を確認しあった。最終の余力審査を4人が終え、最後は相田主将。個人・団体の優勝がかかる中、日ごろの鍛錬の成果を発揮、安定した騎乗を見せ、この大一番を減点5に抑え、主将という重責を果たした。試合後、富沢監督は辛かったと思うが、みんな4年間良く頑張った。相田の成績はやるべきことをやった結果だ」と部員たちの功績を称えた。(山室 綱寛・文2)



▲「総合馬術」の優勝メンバー(左から小園美智雄、島田学、天羽、相田、森裕悟)